

福井アリーナ構想の経緯

はじめに

福井アリーナ構想は、2020年5月に福井商工会議所が福井駅周辺地区のまちづくりに関する提言を発表したことに始まります。その後、官民連携の協議を経て、段階的に計画を策定してきました。以下に、福井アリーナ構想の誕生から計画策定までの経緯を時系列でご説明します。

1. 構想の誕生と初期検討（2020年5月～2022年2月）

（1）構想のはじまり

①福井商工会議所による提言（2020年5月）

福井商工会議所まちづくり・交通委員会は、「福井駅周辺地区のまちづくりに関する提言－県都再生、ラストチャンス－」を発表しました。この提言では、2023年春の北陸新幹線福井・敦賀開業を見据え、福井市が高速交通時代にふさわしい県都として都市機能の充実や環境整備が必要であるとの認識を示しました。特に、福井駅東口エリアについて、福井市文化会館の建て替え候補地であった東公園（旧市営球場跡地）を活かし、コンベンションや展示会、スポーツイベントなどMICEに対応したアリーナタイプの多目的ホールを建設することを提言しました。これは、JR福井駅から近く、域外からの誘客と交流人口拡大、賑わい創出につながると期待したものです。

②県都にぎわい創生協議会の設立（2020年7月）

福井商工会議所の提言を受け、福井商工会議所、福井県、福井市の3機関からなる「県都にぎわい創生協議会」を設立しました。この協議会は、北陸新幹線福井・敦賀開業及び将来の大阪延伸という好機を活かした福井駅周辺地区の再生とまちづくりを目的とし、2040年に向けたグランドデザインと開業を見据えたコンテンツづくりについて議論を重ねていくこととしました。

（2）アリーナ機能の必要性確認と具体化検討

①アリーナ機能の必要性の認識（2021年10月～11月）

県都にぎわい創生協議会のエリアマネジメント部会では、福井市中心市街地に求められる新たな機能として、アリーナのような多目的施設の有用性を議論しました。その後、第3回県都にぎわい創生協議会において、2040年の県都の将来像を描くグランドデザインの目標達成のため、「アリーナ機能と芸術・文化活動の拠点となる機能が必要」であるとの認識で一致しました。

②具体化検討と候補地の選定（2022年2月）

第4回県都にぎわい創生協議会では、福井駅周辺の賑わいづくりを目的として、アリーナ機能の具体化に向けた検討を進めることで合意しました。この際、建設候補地として「福井市東公園が福井駅から近く、中心市街地のにぎわいづくりには最適である」との方向性を示しました。

2. 基本構想の公表（2022年5月～2022年10月）

（1）基本構想（案）の公表

①基本構想（案）の報告とコンセプトの具体化（2022年8月）

第5回県都にぎわい創生協議会では、策定中の基本構想の検討状況として、建設面積、席数、利活用、整備スキーム、スケジュールなどについて報告しました。

また、この時期に同時並行でコンサルティング会社協力のもと「福井アリーナ（仮称）基本構想（案）」を作成しました。

（2）県都グランドデザインでの位置づけ

①県都グランドデザインでの位置づけ（2022年10月）

令和4年（2022年）10月「県都グランドデザイン」を策定し、福井アリーナ構想を福井駅周辺の交流人口拡大とにぎわい創出の中核施設として位置づけました。特に、目標3「文化・芸術やスポーツを楽しめるまちをつくる」の主要プロジェクトとして「多目的アリーナの整備」を短期目標として明記しました。

3. 基本計画・事業計画の策定と具体化（2023 年～2025 年 8 月）

（1）プロバスケットボールチームの躍進と機運醸成

①福井ブローウィンズの活躍（2023 年）

プロバスケットボールクラブ「福井ブローウィンズ」が B3 リーグに参入し、開幕戦やホーム最終戦で 3,000 名を超える観客を集めるなど、アリーナ構想の必要性を裏付ける盛り上がりを見せました。

（2）計画の見直しと課題への対応

第 1 次見直し（2024 年 2 月）資材高騰や物価上昇による事業費の上振れにより事業費を見直し、民間の施設整備に適用できる国庫補助制度の活用支援などを県・市に要望しました。

（3）基本計画（案）の策定

①基本計画（案）の策定（2024 年 2 月 6 日）

「福井アリーナ整備・運営に関する基本計画（案）」を策定しました。この計画では、整備目的を「北陸新幹線開業後のさらなる交流人口の拡大と、地域経済の持続可能な発展につなげる」ことと明確にしました。

②整備・運営方針の確定

整備・運営方針として「にぎわいの創出」「多世代交流の促進」「防災機能の強化」「地域共生の推進」「コスト意識の徹底」を掲げました。

③コンセプトの設定

コンセプトは「まちに開かれまちとつながる地域交流拠点」として、「歩きたくなる」まちを盛り上げる、365 日県民・市民でにぎわうアリーナを目指すものとし、デザインコンセプトは「まち全体に広がるにぎわいの風を、アリーナから巻き起こす」とし、福井ブローウィンズの世界観を体現するアリーナデザインを提案しました。

④施設規模・スキームの詳細化

アリーナの規模は、メインアリーナが新 B1 基準を満たす計画で、プロスポーツ時は最大約 5,000 席、コンサート時は最大約 4,500 席としました。延床面積は約 12,000 m²、建築面積は約 8,700 m²としました。整備・運営スキームは「民間主体の整備・運営＋行政支援」を基本とし、経済界、福井県、福井市、アリーナ整備会社、アリーナ運営会社の役割を示しました。

⑤事業費・効果の試算

概算事業費は 105 億円とし、国・県・市からの補助金最大 50 億円と民間調達 55 億円で賄う資金調達計画を示しました。年間来場者見込は 580,000 人、経済波及効果は年間 56 億円と試算しました。開業予定は令和 9 年（2027 年）秋頃としました。

（4）計画の見直しと課題への対応

第 2 次見直し（2025 年 6 月）

物価高騰により再び整備費が上振れ（最大 160 億円）することを踏まえ、県へふるさと融資制度の活用にかかる調整や利子・保証料への支援、市には制度拡充された第二世代交付金を最大限活用した財政支援を要望しました。

（5）事業計画（案）の発表

①事業計画（案）の発表（2025 年 8 月 19 日）

福井商工会議所が、「福井アリーナ（仮称）整備・運営に関する事業計画（案）」を発表しました。

②整備目的・方針の再確認

整備目的は「北陸新幹線開業後のさらなる交流人口の拡大と、地域経済の持続可能な発展につなげる」こととし、整備・運営方針として「にぎわいの創出」「多世代交流の促進」「防災機能への貢献」「地域共生の推進」「コスト意識の徹底」を改めて示しました。

③アリーナコンセプトの確定

アリーナコンセプトとして「まち全体に広がるにぎわいの風を、アリーナから巻き起こす」こと、「まちに開かれまちとつながる地域交流拠点」として 365 日県民・市民でにぎわうアリーナを目指すことを強調しました。

④施設計画の最終案

計画地は福井市東公園内で、席数はプロスポーツ時約 5,000 席、コンサート時約 4,500 席（新 B1 基準対応）としました。延床面積は約 13,000 m²、建築面積は約 8,250 m²としました。

⑤整備・運営スキームの確定

整備・所有会社「株式会社福井アリーナ」と運営会社「株式会社Fプライマル」が中心となり、国、福井県、福井市、まちづくり福井などが連携する形を示しました。

⑥最終的な事業費・効果試算

事業費は最大 160 億円となり、国、福井県、福井市からの交付金、銀行融資、寄附・出資・企業版ふるさと納税、ふるさと融資を合わせた資金調達計画を示しました。年間来場者数見込は 39 万人、経済波及効果は年間 61 億円（建設効果を除く）と試算しました。

⑦開業スケジュール

開業までのスケジュールは、2026 年 1 月頃から実施設計、2027 年 1 月頃から建設工事、2028 年秋頃のアリーナ完成を目指すものとしました。

「なぜ中心市街地にアリーナが必要か」

福井アリーナが東公園に必要な理由は、主にその地理的優位性と、福井の「県都再生」に向けた多角的な機能と戦略的な位置づけにあります。

1. 福井駅からの極めて良好なアクセスと「まちなか」の賑わい創出

東公園は、JR 福井駅から「極めて近く」、徒歩圏内という利便性の高い立地です。この立地を活かすことで、北陸新幹線福井・敦賀開業（2024 年 3 月）以降、県内外から多くの人々が福井駅周辺に集まることが期待できます。アリーナを核として、来場者がまちなかに立ち寄ったり、宿泊したりすることで、福井駅周辺の賑わいを創出し、地域経済の活性化につなげることを目的としています。

2. 多様な機能と利用機会の提供

プロスポーツの拠点として、プロバスケットボールクラブ「福井ブローウィンズ」のホームアリーナとなることを想定し、新 B1 リーグ（B.LEAGUE PREMIER）基準を満たすよう計画しています。スポーツイベントに加えて、ライブコンサート、セミナー、国際会議、企業展示会といった MICE に対応できる多目的施設として、県内外の多世代が集い交流できる場となることを期待しています。また、県外から人を呼び込み、アリーナでのイベントを楽しんだ来場者が、県内の他の観光地やイベントにも足をはこんでもらうことで県内全域への新たな人の流れを巻き起こすことを期待されています。

3. 地域共生と防災機能の強化

周辺の良い住環境の維持・保全に最大限配慮した計画としています。具体的には、周辺住宅街からの距離を確保したアリーナ配置、住宅地への車両の出入りを抑えた駐車場配置、周囲に音が漏れにくい鉄筋コンクリート造の外壁、騒音低減や景観配慮を兼ねたデザインなどを盛り込んでいます。また、災害時における帰宅困難者支援や物資の一時集結等としての役割を担い、地域の防災機能の強化に貢献します。

4. 「県都グランドデザイン」における戦略的な位置づけ

福井商工会議所、福井県、福井市の 3 機関からなる「県都にぎわい創生協議会」が策定した「県都グランドデザイン」において、福井アリーナ構想は、福井駅周辺の交流人口拡大とにぎわい創出の「中核をなす施設」として明確に位置づけています。このグランドデザインでは、福井駅周辺エリアの都市機能が郊外に分散している現状を踏まえ、分散した都市機能をまちなかに再配置し、エリア価値を最大化する「県都リノベーション」という基本方針を掲げており、東公園エリアは特に「スポーツ・文化・エンターテインメントを楽しむ新にぎわいゾーン」として位置づけています。

これらの理由から、福井アリーナの建設地として東公園が最適であると判断し、計画を進めています。